

研究の成果は？

座間味村をはじめとした調査で、水深80メートル以上の深さにサンゴの生息を把握！今後の調査結果にも期待大。



トコエ SDGs  
「私たちの海ってこのままでいいんだっけ？」



ここがポイント！



深い地点の調査も可能に！

水中ドローンを使用することで、深い地点も安全かつ簡単に調査できる。



環境DNAで種類が分かる！

サンゴが排出する環境DNAを解析し、生息しているサンゴの種類が識別できる。



サンゴの植付にも効果！

各地点で生息しやすいサンゴの種類を把握することで、効率良くサンゴを植え付けられる。

CASE 1



沖繩科学技術大学院大学 × 株式会社NTTドコモ × 琉球大学 [共同研究]

産官学連携の研究で 沖繩のサンゴ礁を守る

沖繩科学技術大学院大学(OIST)、株式会社NTTドコモ、琉球大学が共同研究を行っている。採取した海水からサンゴの種類が分かる「サンゴ環境DNA解析法」と水中ドローンを使い、人では潜ることが難しかった水深でもサンゴ礁の調査が可能に。世界初の取組に座間味村も協力。新種のサンゴ発見に期待が高まる。



(写真提供: 株式会社NTTドコモ)



進め！  
うちなー調査隊  
県内の気になるコト・モノを知れば 沖縄がもっと面白くなる！

どうしたら次世代に残せるの？ 世界に誇る、沖縄の美しい海

その美しさに魅了されて、たくさんの人が訪れる沖縄の海は、漂着ゴミやサンゴ礁の減少といったさまざまな課題を抱えています。沖縄の財産でもある美しい海を守るために取り組んでいることは？

魅力的な海が抱える さまざまな問題

透明度の高い海と世界屈指のサンゴ礁に囲まれた沖縄。夏はダイビングや海水浴、冬はホエールウォッチングが楽しめる地域として、国内外から多くの観光客が訪れます。一方で放っておけない問題も。その一つが漂着ゴミです。2022年度には1年間でおよそ577トンの漂着物が海岸で回収されていて、前年と比べ28トンも増加しています。ペットボトルや発泡スチロールといったゴミは、プラスチック由来のものも多く、プラスチックゴミは自然分解されることがないため、海洋生物が誤って食べてしまったり、海洋生態系を支えるサンゴ礁の成長が阻害されると指摘されています。

物が共存し、その周辺では昔から漁業も営まれ、人々の生活と深い関わりがあります。今ではサンゴ礁を観光資源として活用し、観光・レジャー産業がマリンスポーツやダイビングを提供し、恩恵を受けています。持続可能な漁業・観光業のためにも、また未来を担う子どもたちに財産として引き継ぐためにも、サンゴ礁の保全が重要です。

各地で広がる 海を守る取組

現在、植栽による赤土流出防止やオニヒトデの駆除など、海を守る取組が行われています。沖繩科学技術大学院大学と株式会社NTTドコモは、2022年3月に水中ドローンと環境DNA研究を世界で初めて組み合わせ、人が潜れなかった深い地点に生息するサンゴの

生態を解明する共同研究を始めました。今年4月から琉球大学も参加。現在は、サンゴ礁の基礎データを収集し、分析することで、より効果的な保全策の考案が検討されています。また、県民が積極的に取り組んでいるボランティア活動も盛んです。海岸を清掃するビーチクリーン活動は県内各地で行われているほか、ダイビング事業者が海底に沈んだゴミを回収しています。豊かな生態系が育まれている沖縄の海は、県経済や産業にとって欠かすことのできない貴重な観光資源です。この海を守り、次世代に受け継いでいくために、まずは現状を知ることが大切です。また、支援や行動をすることで、より大きな効果が生まれます。海の保全が沖縄の未来を支えることにつながります。

さまざまな場所で広がる、海を守る取組

CASE 3  
[ボランティア]  
ECO HONU  
<https://www.j-ecoclub.jp/ecoreport/profile.php?id=1138>



子どもたちが始めた、楽しい海辺の清掃活動

海の生き物を守ろうと、子どもたちが週に一度、海岸に漂着したゴミを拾っている。南城市知念の小中高生でつくる「エコホヌ」は、コロナ禍の休校期間をきっかけに活動をスタート。「拾うだけでなく、何がどれくらい落ちているか調べよう」とゴミを分別して数値化し、海洋ゴミ調査などを行う環境NGO団体に報告。地域の人に知ってもらうことがゴミの減少につながると考えまとめた壁新聞は、エコ活動に関する全国コンクールで賞を受賞した。

CASE 2  
[養殖]  
沖電開発株式会社  
<https://www.okikai.co.jp>



海底にサンゴの苗を植え付け、海の豊かさを守る

サンゴ礁の減少を防ごうと、県内各地でサンゴ再生の活動が行われている。サンゴの苗を作り、一定程度成長したら海に直接植え付ける取組で、保全につながると期待されている。沖電開発株式会社では2009年から、地下から組み上げた地下浸透海水を使ってサンゴの苗を育てるサンゴの陸上養殖を実施し、海底に植え付けている。その数は年間2,000本以上になるそう。修学旅行や社会科見学も受け入れ、苗作り体験や環境学習も行っている。



豊富な海の生態系を保つことで 沖縄は大きな恩恵を受けている



- ✓ 美しい海を守ることは 未来の子どもたちへの投資につながる
- ✓ 持続可能な沖縄の漁業・観光業のためにも 海の保全活動は重要！